

2025年度(令和7年度)

# 人権に関する市民意識調査

## 報告書

大分市

2026年(令和8年)4月

# 目次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査の目的・内容・方法等	1
1 調査の目的	1
2 調査の内容	1
3 調査の方法	1
4 調査結果の集計分析	1
第2節 調査の実施過程	2
1 調査対象の設定・標本（サンプル）の抽出	2
2 調査票の配布・回収・有効調査票の選定	3
第3節 回答者の属性	4
1 性別	4
2 年代別	4
3 職業別	5
第4節 報告書の見方	6
1 集計結果の見方について	6
2 クロス集計について	6
第2章 調査結果の概要 ～単純集計結果をもとに～	7
第1節 人権の尊重、人権問題への関心について	7
1 人権の尊重	7
2 人権問題への関心	8
第2節 法令や宣言、大分市の取組等について	10
1 人権に関する法令や宣言	10
2 人権に関する大分市の条例等	20
3 人権啓発センターについて	26
第3節 人権全般について	27
1 差別や人権侵害をされた経験	27
2 差別や人権侵害をされた場合の対応	30
3 差別に対する考え方	31
4 日常生活における考え方	38
5 身元調査について	48
6 住居決定について	49
7 人権問題に関する学習経験	56
第4節 個別の人権問題について	64
1 女性の人権問題	64
2 こどもの人権問題	68
3 高齢者の人権問題	72
4 障がい者の人権問題	76

5	部落差別（同和問題）	80
6	外国人の人権問題	88
7	感染症の患者等に関する人権問題	91
8	ハンセン病患者・元患者に関する人権問題	94
9	刑を終えて出所した人の人権問題	97
10	犯罪被害者の人権問題	98
11	性的マイノリティの人々の人権問題	100
12	インターネット上の人権侵害	103
第5節	自由記述について	106

#### 巻末付録

- ・「人権に関する市民意識調査」調査票
- ・用語説明

# 第1章 調査の概要

# 第1章 調査の概要

この章では、本調査の目的・内容・方法等、実施過程(手順等)及び回答者の属性などについて記します。

## 第1節 調査の目的・内容・方法等

### 1 調査の目的

この調査は、市民の人権問題に関する意識の現状を把握・分析し、2020年度(令和2年度)調査(以下「前回調査」)との対比を含め、今後の人権教育・啓発に関する施策を有効に進めるための基礎資料にすることを目的としています。

### 2 調査の内容

- (1) 人権の尊重、人権問題への関心について
- (2) 法令や宣言、大分市の取組等について
- (3) 人権全般について
- (4) 個別の人権問題について

【巻末付録】「人権に関する市民意識調査」調査票

### 3 調査の方法

- (1) 調査地域 大分市全域
- (2) 調査対象 住民基本台帳に記載された18歳以上の市民
- (3) 調査対象者数 3,000人
- (4) 対象者の選定 無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送による調査票の配布
- (6) 回答方法 郵送またはインターネット(無記名回答)
- (7) 調査期間 2025年(令和7年)12月5日～同年12月26日(消印有効)

### 4 調査結果の集計分析

集計・分析 (株)日建コンサルタント

## 第2節 調査の実施過程

### 1 調査対象の設定・標本（サンプル）の抽出

調査対象者については、2025年(令和7年)9月末現在の住民基本台帳に記載された18歳以上の市民を対象に、性別、年齢別、地域(本庁・各支所)別に、人口構成に即して3,000人を抽出しました。

その内訳は以下のとおりです。

#### (1) 2025年(令和7年)9月末現在の住民基本台帳(18歳以上)

男 183,252人(49%)

女 194,493人(51%)

計 377,745人

#### (2) 調査対象者数

年齢		10歳代 20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計	前回調査
市全体	男	222	202	254	258	210	308	1,454	1,447
	女	206	192	252	271	239	386	1,546	1,553
	計	428	394	506	529	449	694	3,000	3,000
本庁	男	98	91	112	115	94	116	626	622
	女	95	89	114	124	107	152	681	682
鶴崎	男	39	39	47	43	34	53	255	239
	女	36	37	46	44	38	63	264	251
大南	男	10	8	11	15	15	20	79	83
	女	10	8	12	16	17	22	85	88
植田	男	32	26	39	40	34	66	237	242
	女	30	26	40	42	40	85	263	269
大在	男	20	17	19	18	11	13	98	93
	女	16	14	16	17	11	15	89	83
坂ノ市	男	10	11	13	11	7	12	64	58
	女	9	9	12	10	8	14	62	59
佐賀関	男	2	2	3	3	4	9	23	25
	女	1	1	2	3	4	11	22	27
野津原	男	1	1	2	2	2	4	12	13
	女	1	1	1	2	2	5	12	14
明野	男	10	7	8	11	9	15	60	72
	女	8	7	9	13	12	19	68	80
計		428	394	506	529	449	694	3,000	3,000

## 2 調査票の配布・回収・有効調査票の選定

調査票の配布については、調査の対象になった市民から快く安心して協力していただけるよう、郵送法を採用しました。また、利便性を考慮し、今回調査よりインターネット回答を導入しました。

調査票の有効・無効の判断については、回収調査票のうち、全ての設問において回答が無かった分については、データ分析が不可能であるため「無効」としました。また、単純分析については、性別、年代別に集計することから、性別及び年齢のどちらか一方でも回答がなかった分については「無効」とし、分析対象を978票として分析しました。

ただし、選定した票の中には、質問項目の一部に答えていない分もあります。その場合は、その質問に答えた票数が合計数値になります。調査票回収結果は表1-1のとおりです。

表1-1 調査票回収結果

	今回調査	前回調査
発送調査票数	3,000	3,000
到達調査票数	2,986	2,988
不到達調査票数	14	12
回収調査票数(郵送)	643	1,684
回収調査票数(オンライン)	344	-
有効回収調査票数	978	1,679
無効回収調査票数	9	5
発送調査票数に対する有効回収率	32.6%	56.0%
到達調査票数に対する有効回収率	32.8%	56.2%

### 第3節 回答者の属性

この節では、回答者全体の構成を、性別、年代、職業から探ります。

#### 1 性別

性別分布を見ると、男性39.9%、女性60.0%、その他0.1%となっています。

表1-2 性別分布状況

	今回調査		前回調査	
	実数	百分比	実数	百分比
男性	390	39.9%	637	39.1%
女性	587	60.0%	983	60.3%
その他	1	0.1%	11	0.7%
計	978	100.0%	1,631	100.0%

#### 2 年代別

年代別分布を見ると、70歳以上が30.0%で最も多く、10・20歳代が5.9%と最も少なくなっています。

表1-3 年代別分布状況

	今回調査		前回調査	
	実数	百分比	実数	百分比
10・20歳代	58	5.9%	122	7.5%
30歳代	120	12.3%	193	11.8%
40歳代	151	15.4%	291	17.8%
50歳代	176	18.0%	303	18.6%
60歳代	180	18.4%	327	20.0%
70歳以上	293	30.0%	395	24.2%
計	978	100.0%	1,631	100.0%



### 3 職業別

職業別分布を見ると、民間の企業や団体の正社員・正規職員が25.4%で最も多く、学生が2.4%と最も少なくなっています。

表1-4 職業別分布状況

	実数	百分比
自営業(農林漁業・サービス業等) (家族従事者を含む)	69	7.1%
民間の企業や団体の経営者・管理者	36	3.7%
民間の企業や団体の正社員・正規職員	248	25.4%
公務員・教職員	65	6.6%
家事専業	120	12.3%
パート・派遣・契約社員等の非正規雇用	179	18.3%
無職	222	22.7%
学生	23	2.4%
その他	11	1.1%
計	973	100.0%

## 第4節 報告書の見方

この節では、本報告書に記した数値の見方や、その数値の算出根拠などについて説明します。

### 1 集計結果の見方について

- ・原則的に百分比(%)を示しています。
- ・本文や図表中の比率は、すべて小数点以下第2位を四捨五入し小数第1位まで表示しています。そのため、各選択肢の比率の合計が100.0%にならないことがあります。
- ・複数選択可の設問では、表中の比率は回答対象者数に対する比率です。そのため、比率の合計は100%を超えることがあります。
- ・グラフ中のnは回答対象者数(標本数)を表しています。

### 2 クロス集計について

クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、2つの設問の回答の間に何らかの関連があるかどうかを調べるために複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。